

「頼む」とバトンを手渡され！

キーボード・音楽監督 桑井七重

皆さま

お久しぶりです。そして、はじめまして。

1995年に劇団ふるさときゃらばんに入団し、2005年までの10年間、主に下座でキーボードと歌を担当していました桑井七重(当時は桑井麻里と名乗っていました)です。

このたびは、ミュージカルカンパニーふるきゃらのスタートに関わることができ、本当に嬉しく思っています。

プロデューサーの安田研二郎さんから、カンパニーを立ち上げる事、その第1弾として「瓶ヶ森の河童」の公演を考えていること、ついては出演してもらえないかというお話をいただいた時は、ちょっと大げさですけど「奇跡が起きたんじゃないか」と感激し、思わず空を見上げて石塚さんにお礼を言っていました。

と言いますのも。

「瓶ヶ森の河童」は、1998年の立ち上げから2002年の千秋楽まで深く濃く関わった、私にとって、とても大切な作品なのです。

当時、下座としての仕事はもちろんのこと、役者メンバーの歌の稽古や、こども参加型公演ではこどもたちが歌う歌の作曲もさせていただいた、愛して止まない作品。

千秋楽から14年もの時間が流れ…その間に悲しいお別れがいくつもありませんが…

このたびのふるきゃらの復活公演と共に、私もこの作品に復帰することができました！

実は今回、本番を迎え、お客さまを目の前にし、いざ芝居が始まったら、自分の中で14年間止まっていた時計がもう一度動き出した、と思ったんですね。ブランクは感じませんでした。そして、古い作品をなつかしい気持ちで公演しているのではなく、新たなものとして生み出しているという感覚があったんですね…。



これは、カンパニーに関わるみんなが石塚さんから「よろしく頼むな」とバトンを手渡された、ということに違いない♪

これまで培ってきたふるきゃらスピリットをたいせつにしながら、新しい形で未来に引き継いでいくことができれば最高だな、と私は思います。サポーターの皆さまと一緒にカンパニーを盛り上げていきたいです。

これからもどうぞ応援をお願いいたします！